

学校法人 日産学園

F Y 2 4 - 2 9 6 か年計画

〔目次〕	P. 1	日産学園の沿革、組織と日産 5 校との関係
	P. 2	日産学園経営理念
	P. 3 ~ 4	日産学園の現状分析
	P. 5	F Y 2 4 - 2 9 6 か年の全体計画
	P. 6 ~ 1 0	各課題領域別活動計画
		① 募集領域
		② 教育領域
		③ 人財
		④ 収支改善
		⑤ 管財

1. 日産学園の沿革

◆設立目的

・80年代以降進展著しい自動車整備技術に対応すべく、自動車整備士養成機関として1983年に日産自動車(株)の寄付により学校法人 日産学園が設立され、栃木校が開設された。その後、88年京都校、93年愛知校と学校を拡大。さらに姉妹校となる日産横浜自動車大学校(横浜校)・日産愛媛自動車大学校(愛媛校)と連携しながら、優秀な国家1級・国家2級・車体整備士資格を有する自動車整備士を、日産販売会社を中心に自動車産業へ送り出している。

◆学校概要

(25/4期首現在)

学校名	栃木校	愛知校	京都校	企画支援部	日産学園計	姉妹校		日産5校合計
						横浜校	愛媛校	
設立	83年	93年	88年	—		89年	77年	—
設立法人運営形態	日産学園直営	日産学園直営	日産学園直営	—		NML直営 (運営を日産学園へ委託)	学校法人愛学園	—
入学定員	200名	180名	250名	—	630名	240名	90名	960名
在籍学生	504名	362名	587名	—	1453名	378名	200名	2031名
教職員数	45名	37名	67名	15名	164名	49名	22名	235名

(参考) 他メーカー校

トヨタ校				
学校名	東京	名古屋	神戸	計
開校	63年	61年	93年	
入学定員	400名	400名	350名	1150名
ホンダ校				
学校名 (所在地)	関東 (埼玉)	関西 (大阪)	計	
開校	76年	81年		
入学定員	245名	250名	495名	

◆設置課程

◆自動車整備科(2年制)	: 学園3校全校設置、国家2級実技試験免除
◆1級自動車工学科(4年制)	: 学園3校全校設置、国家1級実技試験免除
◆モータースポーツ系(上級課程1年制)	: 自動車整備・スポーツメカニクス科(栃木校) ※26年度末まで
◆モータースポーツ系(3年制)	: 自動車整備・マスターメカニクス科(愛知校)
◆板金塗装系(3年制)	: 自動車整備・カーボディマスター科(愛知校)
	自動車整備・ボディリペア科(京都校)
◆カスタマイズ系(4年制)	: 自動車整備・カスタマイズ科(京都校)
◆板金塗装 & モータースポーツ系(4年制)	: 自動車整備・トータルマスター科(愛知校)
◆国際科(3年制/留学生専用課程)	: 栃木校・京都校・愛知校(愛知校は26年度より開設)

2. 日産学園経営理念

『経営理念』

つねに時代をリードする人間力・技術力を兼ね備えた自動車エンジニアを育成し、自動車業界および社会の発展に貢献する。

『ミッション』

時代の要請する自動車エンジニアの育成・輩出
優秀な自動車エンジニアの日産ネットワークへの提供

『教育方針』

1. 幅広い自動車技術とプロを目指すための実践力を習得させる。
2. お客さまに感謝されることを喜びとするマインドとコミュニケーション力を育成する
3. 社会人として愛され信頼される豊かな人間性とたゆまぬ向上心を育む
4. それらを「クルマの持つ魅力・可能性・人との係わり」の学びを通して実現する

3. 日産学園の現状

(1) 日産学園を取り巻く外部環境

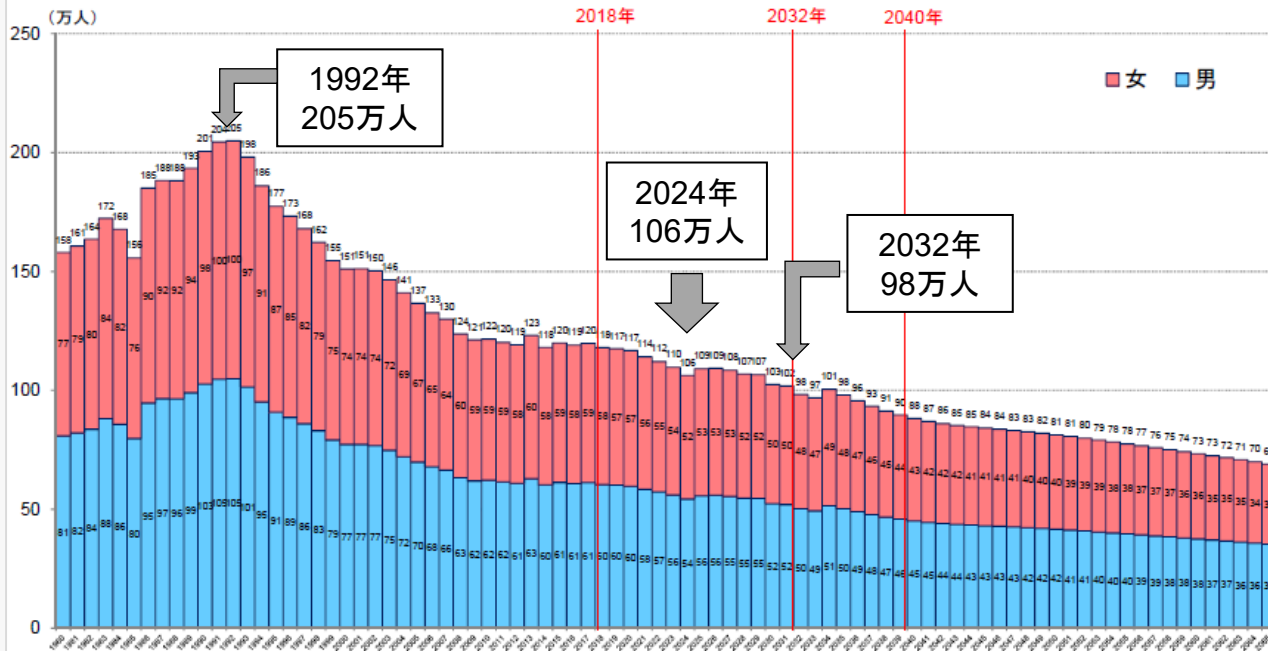
①日本の18才人口の減少（左下図参照）

1992年の205万人をピークに18歳人口は減少。2024年には106万人、2032年には100万人を割り込み、98万人となる。

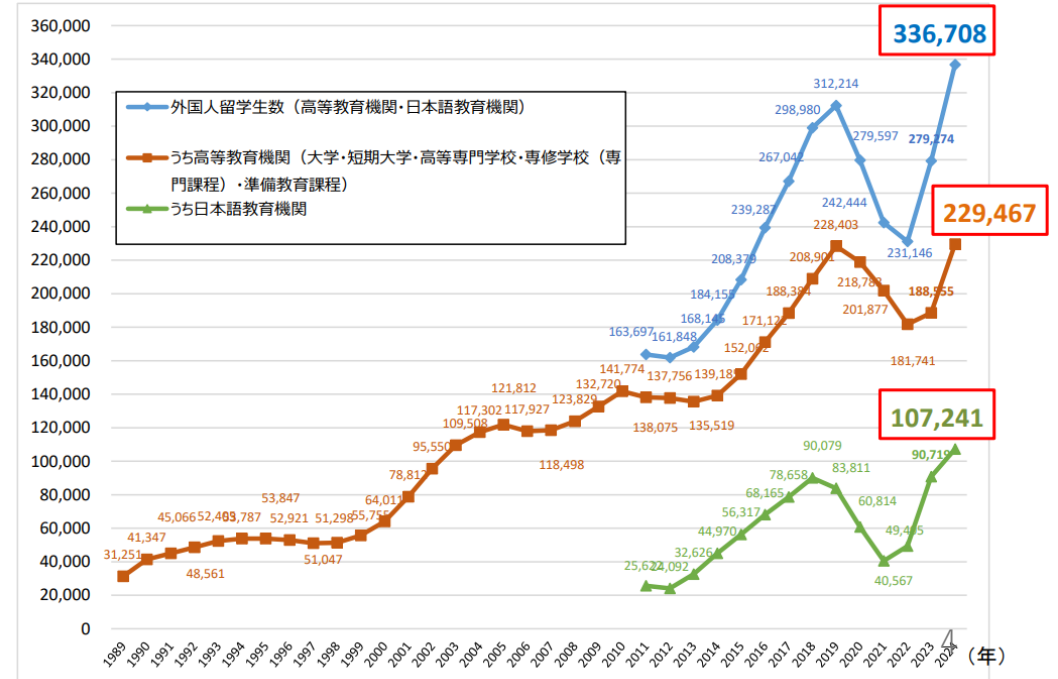
②更に「若者のクルマ離れ」「4年制大学への進学増」で日本人学生獲得競争が激化

③外国人留学生はコロナ禍以前を上回り、毎年増加（特にアジアからの留学生増）（右下図）

日本の18才人口推移予測（1980年～2065年）



日本在住外国人留学生推移（1989年～2024年）



3. 日産学園の現状

(2) 日産学園の現状

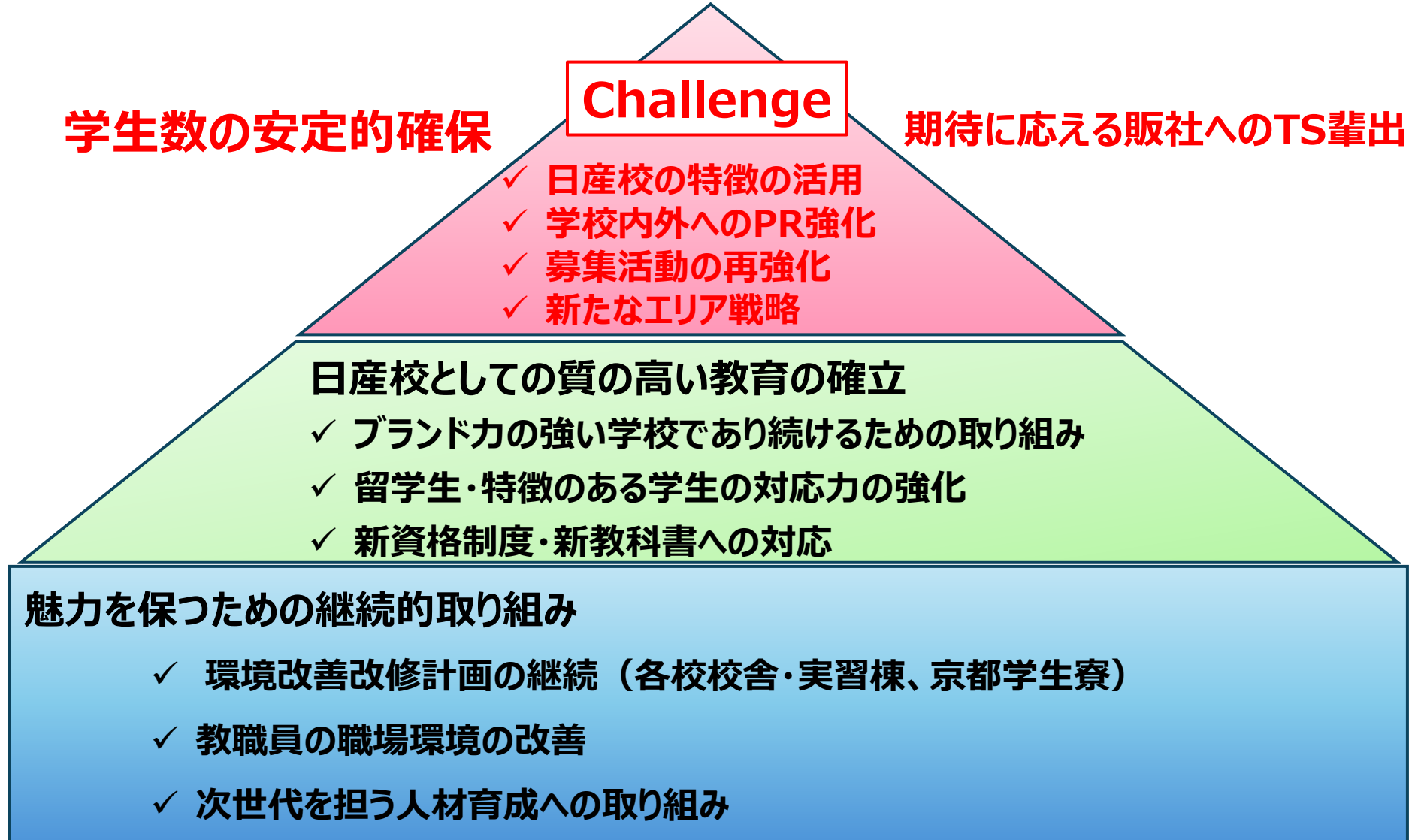
2024年度主要目標達成状況

	国家試験取得率			就職率	在学率	総合収支 (百万円)	入学者数 (25年4月入学)
	国家2級	国家1級	車体				
日産学園3校目標	100.0%	90.0%	100.0%	100.0%	94.5%	▲314	540名
日産学園3校 2024年度結果	99.7%	98.8%	100.0%	100.0%	94.6%	▲219	611名
(参考：日産5校結果)	99.8%	97.9%	100.0%	100.0%	93.5%		885名

項目	2024年度の日産学園の現状（結果）
国家試験取得率	国家資格は1級・2級・車体士いずれの試験も高い長年高い合格率を維持できている。
就職率	「就職率」も長年100%を継続してきている。卒業生の82%が日産販売会社に進んでいる。
在学率	学生が多様化する中で、クラス制によるきめの細かい指導と外部専門家のサポートで、退学・休学者を減らすことができている。
収支	6か年計画の中で総合収支プラスマイナス0を目指す。初年度は▲314百万円の予算を組んだが、決算では約1億円の改善を図ることができ、順調なスタートが切れている。
入学者数	18歳人口の減少や若者のクルマ離れに、コロナ禍も加わり、2022年度まで入学者の減少が続いたが、2023年度から増加に転じている。
人財	人員構成の中心が50歳前後と高齢化が大きな課題。整備士不足で教員採用が厳しくなっている。
管財	建物や設備の更新時期を睨みながら、計画的な更新・補修延長工事を進めている。2019年からは日産自動車からの寄付による就学環境改善工事も計画的に実施。

4. FY24-29 全体計画

永続的な学校運営へ



領域別活動計画①__学生募集

求める姿	具体的な活動項目
日産校の特徴を活かしたPR活動を行い、10年先・20年先・30年先も選ばれる学校となっている。	メーカー校（自動車メーカー設立校）の特徴を活かした学校であることをアピールしていく
	高い国家試験合格率・高い就職率実績をアピールしていく
	最新の自動車技術にも対応した教育をアピールしていく
日産校のイメージアップができている。	学外・学内両方に向けて学内の様々な活動・取り組みを展開していく。
学生を安定的に確保できている。	日本人学生・留学生それぞれ、関係各所との連携を深めた学生募集活動を実現する。
	募集担当者の拡充を図り、活動を強化する。
各地域の特徴にあった募集活動が実施できている。	各学校で、それぞれの地域に適した募集活動を計画・実行する。

領域別活動計画②__教育

求める姿	具体的な活動項目
ブランド力の強い学校であり続けるための取り組み	・電動車授業の充実 電動車の構造を理解し、安全かつ適切な整備ができるように教育を充実させていく
	・先進運転支援システム授業の充実 先進運転支援システムを理解し、安全かつ適切な整備ができるように教育を充実させていく
学生の多様性への対応	・留学生 国家資格の確実な取得に向けて、授業を通した日本語力の向上と国家試験対策を行っていく
	・多様な背景を持つ学生 教員研修により適切な接し方を学び、学習や生活のサポートを行いながら成長を促していく
整備士新資格制度への対応	・新資格制度対応 新資格制度における国家試験の確実な取得に向けた学習計画の見直しと教材の改訂を行っていく

領域別活動計画③__人財

求める姿	具体的な活動項目
各世代で学校を担う人財（教員・職員）が順調に採用でき・成長している。	様々な採用方法・ルート構築により、多彩で優秀な人財を確保する。
	層別に様々な人財育成研修プログラムを設定し、成長に適した育成を図っていく。
	様々な部署・役割を経験することによるキャリア形成と層別の人財育成研修により、次世代の人財を育成し、適切なタイミングで世代交代を図っていく。
在籍する教職員が安心して働き、定着している職場環境・労働条件の実現	世の中の水準と乖離しない賃金改訂を実現し、安定した賃金水準を維持していく。
	進んだ労働条件を実践している日産自動車をベンチマークに、学校の特徴を活かした魅力ある労働条件を実現していく。
	オープンで公平・公正な評価制度の実施と、評価結果に基づく昇格・賃金改訂・賞与支給により、納得のいく処遇を実現する。

領域別活動計画④__収支改善

求める姿	具体的な活動項目
①教育活動収支の健全化 (FY29達成)	・安定した学生募集と学生寮の稼働率向上 ・教職員配置構成の効率化 ・魅力ある新科の立ち上げ検討 ・資産の最大活用の検討
②キャッシュフローの ポジティブ維持	

領域別活動計画⑤__管財

求める姿	具体的な活動項目
継続的・計画的に改修工事が すすみ、安心・安全で快適な環 境で学ぶことができる。	各校建屋・設備の改修計画の每期見直し（3か年改修計画のローリング）
	日産自動車への支援の継続的依頼を含めた、安定的な改修原資の確保